

物理系学会からの報告

谷藤幹子
物理系学術誌刊行協会(IPAP) 事務局長補佐
E-mail: tanifuji@ipap.jp

1

物理系学術誌刊行協会

- 1962年設立
 - 日本物理学会と応用物理学会 (総会員数 約4万人)
 - 物理系学会英文誌 4誌 (JJAP, JPSJ, PTP, OR)
 - 学会ジャーナルの編集制作の合理化、電子化出版



応用物理学

日本物理学会理論物理刊行会 日本光学会

2

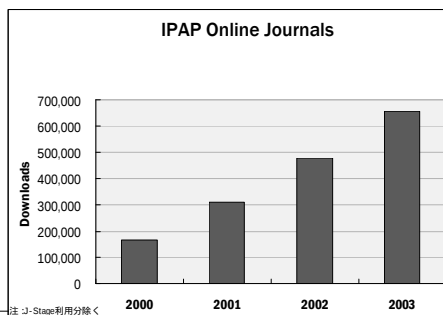
学会ジャーナルの現状は

- ジャーナル出版は学会の“要”
 - 国内研究を発表する場
 - 強い点 : 公正な審査体制、きめ細かい編集サポート、迅速な制作
→ 公開体制
→ 会員から もっと速く審査公開して欲しい
 - 弱い点 : 海外発信力、競争力
→ 会員から もっと広く配信して欲しい
- ジャーナル出版は、学会会員のためのジャーナルか、研究者のためのジャーナルか
 - 会員による、会員のためのジャーナル [会員購読制]
 - 会員数 vs 購読数
 - 会員による、世界に発信するジャーナル [一般購読制]
 - 競合誌、価格、サービス vs 学会ジャーナル

電子化出版を強化するために

- 1962年設立
 - 日本物理学会と応用物理学会
 - 物理系学会英文誌 4誌 (JJAP, JPSJ, PTP, OR)
 - 学会ジャーナルの編集制作の合理化、電子化出版、購読管理
- 1996年 ~ 電子ジャーナル出版
 - 海外関連誌やデータベースとの相互リンクを重視
- 2000年 ~ “IPAP Online Journals” として統合
 - 電子出版の制作合理化、高速化、外部データベース収録
- 2003年 ~ “JJAP Online First”
 - オンライン版の先行出版、速報誌の週刊化
 - SPARC/Japan参加、サイトライセンス検討開始
- 2005年末
 - 創刊号からの電子化完成予定

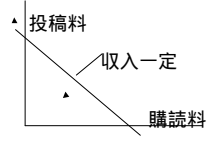
電子ジャーナルの利用状況 -JJAP,JPSJ,PTP



学会ジャーナルの経営を見直す

- 収入の道 : 紙版から電子版へ (電子版にお金を払ってもらえるか?)
- 商業誌の戦略 : 投稿料無料, 購読料値上げ
- 米国物理学会も追随

IPAPはどうする?



学会ジャーナルを支える体制を作る

- ・ 編集委員会
 - ジャーナルの内容を良くする - 編集長専任制、企画特集など
- ・ 刊行委員会
 - ジャーナルの収支バランスを取るためには - 分析、見直し
- ・ 課金ワーキンググループ
 - 電子ジャーナルの利用動向と購読変化の分析
 - 認証の仕組み、利用追跡調査、論文単体売り機能
- ・ 販売促進ワーキンググループ
 - 機関購読情報を整理
 - 購読冊子数の経年変化
 - 学会会員数、編集/閲読者数、投稿数など
関連情報との併せた分析

7

電子ジャーナルの方向性は

研究者は図書館に行かず、デスクトップで研究情報を
得るようになった（文献検索サービスの充実）



学会ジャーナルも、オンライン版主体のサービスへ転換
創刊号からの検索閲覧できる [情報の連続性]
関連海外誌と相互リンクしている [情報の関連性、被引用環境]
内外有力データベースから検索対象となる [情報の副次利用]
JSTのJ-Stageや、NIIの電子図書館とタイアップ (閲覧経路の複数化、
公開論文の分散保存) [情報の安定提供と保存]



サイトライセンス化により
大学・研究機関下の全学部・組織へのオンライン版利用サービス

8

サイトライセンスとは

- ・ 学部、学科毎に冊子を購入、図書室で閲覧し、コピーする
- 
- ・ 中央図書館でライセンスを購入、機関に所属する全員が、
各自のデスクで閲覧する

サイトライセンスにすると

- ・ 中央図書館で、ジャーナル活用度が把握できる
 - 予算配分の適性化
- ・ 冊子を購入していなかった学部・学科の研究者も利用できる
 - 利用環境の向上

サイトライセンス移行計画

- ・ ~2004年 (オンライン版試行期間)
紙版にオンライン版アクセスを付録
- ・ 2004年 SPARC/Japan設立
パートナー誌として参加、共同検討作業を開始
- ・ 2005年購読からサイトライセンス化開始
オンライン版アクセス権に紙版を付録
一部の国公立大学・機関
- ・ 2006年以降の目標
国内外の全購読機関に拡大

2005年の サイトライセンス料試算の一例

<ライセンス料の考え方>

1. 機関の研究活動に応じた負担をお願いする [公平性]
2. 過去5年間の紙版購読収入を維持する [学会経営の維持]
3. 一機関、一ライセンス契約により手続きを簡素化 [サービス向上]

物理系学会ジャーナルの目標

投稿・購読の両面から魅力あるものにする学会努力を継続。例えば、

- ・ 研究者にとって必要な学会ジャーナル
 - 内容の充実に向けた編集態勢の強化 (専任編集委員長制など)、電子ジャーナルの機能向上 (検索機能の向上、相互リンクの強化、掲載情報の配信、主要データベースに収録など)
- ・ 機関にとって購読しやすい学会ジャーナル
 - 機関の利用状況のフィードバックなどのサービスの検討
 - ライセンスの多様化 (パッケージライセンス、マルチサイトライセンス、複数年ライセンス等) のための検討
 - より安定した機関利用者と学会の協力関係を推進



購読する価値のある学会ジャーナル
内容とサービスの向上を目指す

9

ジャーナルを取り巻く海外状況

- アメリカ物理学会
 - 電子投稿・査読、読者データベース改良、オンライン版初校公開、全文PDF配布自由、テーマ毎にVirtual Journal、生物系ポータルサイトに収録、有料のアラートサービス
- イギリス物理学会
 - 過去アーカイブを商品化、国内数大学へパッケージ販売
- 中国、韓国の動き
 - 購読数増、National Depositoryの動き
- ベンダ
 - Googleによる全文検索、主要学会の参加
- 図書館コミュニティ
 - 図書館コンソーシア、価格や条件交渉、学会ジャーナルも参画

13

SPARC事業参画活動

- 1年目の成果
 - 情報支援
 - 図書館情報 (ジャーナル購入状況、購読誌選定事情、海外有力誌の販売戦略) や価格動向など
 - 広報活動支援
 - 学会意識、人材育成
- 2年目の期待
 - 国内外の図書館コミュニティとの連携支援
 - 国内外の広報支援
 - 販売促進支援
- 学会目標
 - 2005年サイトライセンス化を国内大手機関に開始
 - 2006年サイトライセンス化を国内外全機関に拡大
 - 健全で、安定した学会ジャーナルの経営

14